



2020-21
国際ロータリーテーマ



ロータリーは機会の扉を開く
Rotary
ホルガー・クナーク

2020～2021年度 標語
「強い、絆で、未来を築こう」
諫早西ロータリークラブ
会長 野中英己



第1687例会 2021年 2 月 17 日例会記録 NO.25 天候 曇り時々雪

【本 日】会員数 46名 出席 35名 欠席 4名 出席率 91.31%
【2/10】会員数 46名 出席 45名 欠席 1名 (MU 1名) 免除 0名 出席率 97.83%

来 訪 者



ゲスト
諫早市立諫早中学校 教頭 山内 昇 様
吹奏楽部 顧問 嶋田 健治 様

会長の時間



野中英己 会長

「温泉療法の数値化」

日本では全国各地に温泉があり、昔から心身を癒す「温泉療法」の場として親しまれてきました。しかし、温泉の効果を示す科学的根拠があまり浸透していないためか、研究結果を知る機会も少なく、どうしても「民間療法」のように考えがちです。欧米では、医師の判断のもと、痛みの度合いを示す「痛みスケール」などを用いて、温泉療法の効果を数値化しているそうです。例えば、スペインでは、12日間の温泉療法に参加した70代前後の男女59人を調べた結果、男性のほとんどが腰痛や膝の痛みに対して著しい緩和を認め、痛みスケールの度合いが下がりました。一方女性は、体の痛みよりも気分障害や睡眠障害、抑うつなどに効果がありました。また、アメリカでも、温泉がリウマチの症状緩和にどの程度寄与しているかを数値で表す研究が行われています。日本でも、2018年から、環境省が「全国新湯治 効果測定調査プロジェクト」を実施しております。統一したフォーマットを使い、温泉で得られる療養効果を把握しようというものです。成果は、温泉地の価値をさらに高める目的で使われるそうです。

会 長／野中英己 幹 事／宇土 久 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／草野 恵介・原田 典範・久保 泰正・清水 淳・吉田 健一郎
HP/<http://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

幹事報告

例会変更および休会なし

【お知らせ】

※米山記念奨学会より

「ハイライトよねやま Vol. 251」

※国際ロータリークラブ日本事務局より

「第3四半期ハイライト」

◆支援金贈呈式



諫早市立諫早中学校 教頭 山内 昇 様
吹奏楽部 顧問 嶋田 健治 様

困難な中でも自信をつけた

ローテックス 松尾 陸

アメリカへの留学は出国前に描いていたものとはまるで違ったものになりました。新型コロナウイルスの影響で街はロックダウン。通っていた学校は2カ月以上の休校、ロータリーの行事や、ホストファミリーが計画してくれた行事も全てなくなりました。早期帰国の許可が下りていた中、私は残る決断をしました。なぜなら、ホストファミリーが「旅行は行けないけれど、ここに残っていていいよ。あなたは家族なのだから邪魔なことなんてない」と、とても温かく親切に受け入れてくれかたからです。おかげで、予定通りの日程で留学を終えました。そのような状況下でも、家で家族と過ごした日々は忘れられないものになりました。

この不思議な期間を過ごしていく中で、気持ちの変化

誰もが生きやすい社会に

ローターアクト 石戸谷 嶺緒

私は病気や障害のある人々でも生きやすい社会をつくりたいと考えています。そのためには社会から病気や障害に対する偏見をなくさなければいけないと感じています。困っている人を助けたいという思いは、「助ける＝ボランティア」という考えにつながり、ロータリアンの祖父にボランティア活動をしたいという意思を伝えたところ、ローターアクトクラブを紹介され、入会しました。

社会を変えるには、法と人々の考え方を変えるのが一番の解決策だと考えます。しかし、すぐに変えることは困難です。まずは身近なところから始めようと、例えば子どもを対象として、医療、行政だけでは手の届かない支援に目を向けました。医療は病気を治すのが目的で

スマイルボックス

野中 英己君：今日明日は雪まじりの寒い日が続きます。風邪等ひかない様がんばって仕事をしましょう。

永井 栄次君：今日は、諫早中学校 教頭 山内様、顧問の嶋田様、ご来訪いただきありがとうございます。これからも諫早中学校吹奏楽部のご活躍を期待します。

佐藤真太郎君：長い間お休みして、大変申し訳ありませんでした。

塚原 浩三君：早退します。

本日の合計 (2/17)	累計額
¥6,000	¥785,000

ロータリーの友 2021年1月号より抜粋

NEW GENERATION

縁あってロータリーに触れた若者たち。彼らはいま、何を思い、どんなことに挑戦しているのでしょうか。

も起こりました。楽しみは与えられるものではなく、自分で見つけ作り出すもの、そう感じたのです。この閉塞的な世界情勢では、自らがポジティブでないと生き抜けません。留学の1年を通して、かなり自信がついたと思います。いつか自分が壁にぶつかった時に、高校生の時にアメリカで1年間過ごせたことや、慣れない海外で一人、現地の高校に通っていたことを思い出せば、この経験は大きな支えになると考えています。

世界で活躍するシェフを目指している私は、この1年を自分にとっての始まり、原点として捉え、この先の困難は、ここで得た自信を糧に乗り越えていきます。

愛知県名古屋市出身。愛知県立中村高校3年。2019-20年度第2760地区青少年交換学生としてアメリカへ派遣。ホストクラブ：名古屋北RC。趣味は料理、サッカー観戦。

あって、不登校の子どもが学校に通いやすいように、最後までサポートするのには限界があります。スクールカウンセラーや、不登校の子どもを支援する団体もありますが、カウンセラーの訪問は不定期で、団体に支援を求めると費用もかかります。

そこで私は、ソーシャルサポーターとして、教育や行政に関わる組織をつくり、助けてくれる人を増やしたいと考えています。心のケアをしつつ、時には、親と子の間に入って話を聞き、互いの意見を調整します。そして最終的には、不登校の子どもを減らしていきたいと思っています。

青森県弘前市在住。弘前RAC会員。趣味は映画・音楽の鑑賞。児童虐待を防ぐために行政や教育現場、児童相談所はどのように働き掛けているのか、いつも気にしています。